

柏屋七兵衛干菓子製造道具



干菓子製造道具各種



写真① 落雁打ち出し木型（井桁に橘）



写真② つつみがみすりもの
包紙摺物

〔指定年月日〕 令和三年二月二五日
 〔種 別〕 指定有形民俗文化財（生業）
 〔名 称〕 柏屋七兵衛干菓子製造道具
 〔点 数〕 一〇九点
 〔所有者等〕 杉並区教育委員会
 〔所在地等〕 大宮一―二〇―八（郷土博物館内）

指定有形民俗文化財（生業）

柏屋七兵衛干菓子製造道具

柏屋七兵衛干菓子製造道具は、昭和五四（一九七九）年に、柏屋店主大高銚三氏より社会教育課文化財係（現・生涯学習推進課文化財係）が寄贈を受け、郷土博物館開館に伴い移管した資料と、平成二一（二〇〇九）年に杉並区立郷土博物館分館で開催された企画展に伴う調査で寄贈された資料で構成される。

本資料の中には、寄贈者の祖父である四代目柏屋七兵衛の代で途絶えてしまった落雁製造道具やおこし関連の資料が含まれている。また、現在東日本で一般的である粳米粉を主原料とする煎餅ではなく、小麦粉を主原料とする煎餅に関する資料が多く含まれている点も特徴といえる。この他に落雁用の木型が多数存在している。日蓮宗寺紋である「井桁に橘」の木型（写真①）も複数あり、何れも大型である事から贈答用もしくは奉納用であったと思われる、妙法寺門前に在した柏屋の土産物屋としての性格を表しているといえる。おこし関連の資料は包紙版木・摺物（写真②）のみだが、土産煎餅屋であったと伝わる柏屋が、かつては煎餅以外の干菓子も製造していたことを伝える貴重な資料といえる。

これらの資料は、柏屋が煎餅製造を機械製造に切り替える

前に使用していた煎餅製造道具を始めとした干菓子類製造道具である。高度経済成長期以降の機械技術の進歩と生活様式の変化により急激に失われていった所謂手仕事の道具であり、杉並の諸職を考える上で重要な資料といえる。

同資料は、関東における近世から近代にかけての煎餅文化の変化や、同時期の妙法寺を中心とした門前の隆盛の一端をうかがうことが出来る貴重な資料でもある。

【文化財旧所在地】 柏屋七兵衛商店

